ベイズの法則：ベイズの法則を使った思考方法

ベイズの法則とは、新しい情報が、そもそもの確率に対してどう影響するか？と言う事です。

例えば、コミュ力の無い人が居たとして、その人は理系か文系のどちらかだとしたら、どっちだと思いますか？理系はコミュ力が無い人が多いから理系じゃね？と思う人が多いと思います。

ここで、まず考えるべきはベイズの法則の「そもそもの確率」です。そもそも、理系よりも文系の方が多いわけです。

適当に１：１０位としてましょう。

そして、理系全体の中でコミュ力が無い人は、適当に６０％位として、文系は３０％としましょう。

そもそもの確率が１：１０

コミュ力が無い人である確率　６０：３０

６０：３００

１：５と言う割合になり、コミュ力が無い人に出会っても、その人は文系である可能性の方が高いわけです。

さて、今の計算を覚える必要は無いです。大事なのは、そもそもの確率を考え、目の前の新しい情報に振り回されてはいけないと言う事です。

例えば、タバコを８０年も吸って来た１００歳の人が居たとします。その人の事を知って、「タバコ吸っても長生きしてる人が居るじゃねえか」と思うかもしれませんが、そもそもタバコを吸う人の寿命は、データとして吸わない人よりも短いわけです。

タバコ吸ってるご長寿は例外であり、その例外の情報に振り回されてはいけないと言う事です。

ただもし、その新しい情報が事実であったら、もしくは事実である可能性があるなら、そもそもの確率、可能性を更新する必要があるわけです。

天空を浮遊する竜が居た可能性はどれ位でしょうか？そんなの居るわけないじゃんと確率を０で考える人が居るかもしれません。しかし、もし竜と思わしき可能性のある化石が発掘されたら、あなたはどうしますか？その時は、０％と信じていた確率を更新する時かもしれません。